

「クリーピングベントグラス」における 斑点米カメムシ類の発生

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 地域課題解決展示ほによる営農再開支援

研究課題名 クリーピングベントグラスにおける斑点米カメムシ類の発生

担当者 松木伸浩・根本知明

I 実証技術の解説

1 要旨

畦畔の省力的管理を目的としたカバープランツの一つクリーピングベントグラスは、水稻害虫である斑点米カメムシ類の発生源となる。本種を畦畔に植栽した水田で主食用水稻を作付けする際は、斑点米カメムシ類の発生に留意する。

- (1) クリーピングベントグラスの出穂は、6月上旬から始まった(図1)。
- (2) 斑点米カメムシ類成虫は6月上旬から確認され、幼虫は7月中・下旬に増加した。次世代と考えられる成虫は7月下旬に多かった(図2)。
- (3) 斑点米カメムシ類が水稻の出穂前に一世代を経過したことから、クリーピングベントグラスは斑点米カメムシ類の発生源となる。

2 期待される効果

- (1) 畦畔のカバープランツとしてクリーピングベントグラスを導入する際の参考となる。

3 活用上の留意点

- (1) クリーピングベントグラスが優占する川俣町山木屋の法面における調査結果である。
- (2) 本種は、8月上旬から出穂茎葉の黄化、倒伏が始まるため、これ以降の斑点米カメムシ類の発生は少ない。
- (3) 畦畔を本種で被覆し主食用水稻を作付けする際は、斑点米カメムシ類の発生に留意する。

II 具体的データ等



図1 クリーピングベントグラス

場所:川俣町山木屋法面、撮影:2017年7月13日。

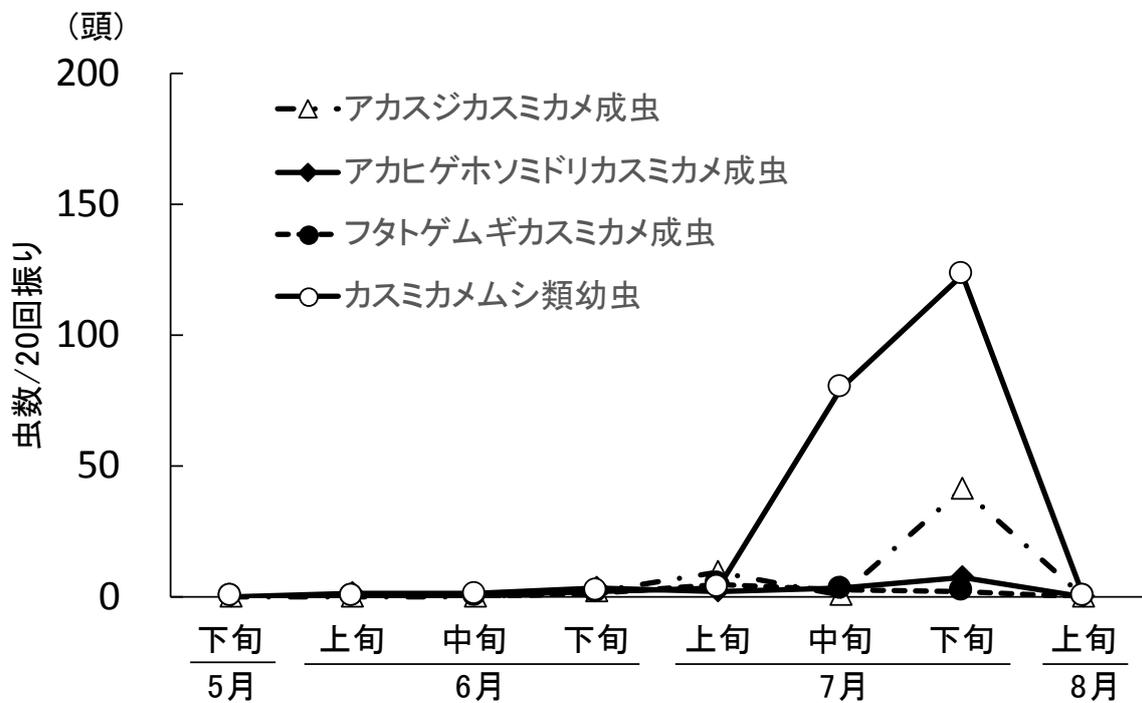


図2 クリーピングベントグラスにおける斑点米カメムシ類すくい取り虫数の推移

調査場所:川俣町山木屋法面。わら芝工法により2015年に施工したクリーピングベントグラスにおいて実施。

III その他

1 執筆者

松木伸浩

2 実施期間

平成28年度～29年度

3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

- (1) 積雪寒冷地におけるベントグラスを用いた水田畦畔の緑化(日緑工誌, 38(1), 200-203, 2012)